

幼児体育指導者検定をとっての感想

幼児体育指導者とは、幼稚園や保育園、スポーツ施設などで幼児から小学校低学年までの児童を対象に体育を教える専門家です。

10月末に学生たちは、学科講習と実技講習を通して、子どもの発育・発達に関する基礎知識やリズム体操などの効果的な指導法について学び受験しました。

受験した1年生に感想を聞いてみました！

マットの補助では手の形が決まっていたり、声かけ+補助だったので、慣れないことだけど練習するうちにだんだん出来るようになりました。

跳び箱の補助では走ってくる相手のタイミングと合わせて手を伸ばして迎えに行くので、難しかったけど、練習したり先生からアドバイスを貰ったりしてうまく出来ました。1番練習したやさい体操では、ズレていたり、振りを間違えたり、手が曲がっていたら減点になってしまうので、元気よく踊れるように練習しました。



運動が苦手で最初はできないことだらけだったけど、練習したり、先生や仲間からアドバイスをもらったりそれを意識して本番に挑めて、合格することができて、苦手なことにも勇気を出して挑戦することの大切さを実感しました！

跳び箱やマット運動をする際の子どもの補助がとても難しかったけど、細かいところまで意識し、子どもが安全に楽しく体を動かせるようにこの検定で習ったことを保育現場でも活かし、これからも頑張っていきたいと思いました！

幼児の発達に関わる基礎知識や運動技能についてや教育の基本原則などの学科講習がありました。授業でも習う部分も含まれていて、領域とつながりがあり学んだ理論的なことに基づいて実技の講習がありました。やさい体操も細かな動きの指導と音なしで部分的に練習することで短期間ながらみんな踊れました。練習法や指導の仕方は実習にいった時も役立ちそうだなと思う場面があり、裏付けされた実践の講習だったのポイントを押さえつつ練習を重ねてできるようになったのでよかったです。